

黙示録10章：小さな巻き物

残りは第七のラツパのみ！

1-4節：もうひとりの強い御使い

「もうひとり」：「七つの封印を解くのにふさわしい者は誰か？」と言った御使い(5章2節)。

「頭上には虹」：神の御座に虹があった(4:3)。

「顔は太陽のよう」：イエス様の御顔(1:16)

「足は火の柱」：イエス様の御足(1:15)

そして、「雲に包まれて、天から降りてくる」

「右足は海の上、左足は地の上」

「ししがほえる」主が来られる時の声(アモス 3:8) ⇒ キリストの再臨

御使いが、キリストの再臨を表していた。

「七つの雷」：おそらく、キリストが父なる神に語ったことで、私たち人間には知らされないこと。

5-7節：御使いの誓い

「神がご自分のしもべである預言者」：旧約聖書の預言者たち。→黙示録が旧約の預言の成就

「神の奥義」：隠されていたが、現された神の真理

例：十字架の奥義(1コリント 2:7-10)、教会の奥義(エペソ 3:5-6)

8-11節：巻き物を食べるヨハネ

「開かれた巻き物」：七つの封印のあった巻き物。今はすべて封印を解いたから開いている。

「口には蜜のように甘い」：キリストの再臨はすばらしい。

御言葉は蜜のように甘い → 詩篇 19:9-10

「腹には苦い」：キリストの再臨が成就するまでに、起こらなければならないことは大きな患難である。

→ 「もろもろの民族、国民、国語、王たちについて」